

(参考様式3)

会 議 録

会議の名称	第21期第4回東村山市立公民館運営審議会			
開催日時	令和3年10月25日 午後6:00～午後8:00			
開催場所	中央公民館 レクリエーションルーム			
出席者 及び欠席者	●出席者： (委員) 佐藤会長、小山副会長、鶴田委員、岩浪委員、岩松委員、森山委員、村上委員、永吉委員、角町委員、杉山委員  (市事務局) 公民館長 肥沼、公民館館長補佐 齋藤、事業係長 川嶋 秋津公民館長 田中、富士見公民館長 町田、廻田公民館長 山岸  ●欠席 萩山公民館長 半井			
傍聴の可否	可	傍聴不可の場合はその理由	傍聴者数	0
会議次第	1. 会長あいさつ 2. 審議事項 (1) 市民講座等の公民館主催事業に対し30歳代・40歳代の参加を促す方策」について 3. 報告事項 (1) 令和3年度主催事業及び市民講座について (2) その他 4. その他 (1) 次回日程について			
問い合わせ先	教育部公民館 担当者名 齋藤 電話番号 042-395-7511 ファクス番号 042-395-7515			
会 議 経 過				
<p>【会長】 こんばんは、事務局より中間報告案がお手元に届いていると思います。 内容は、過去2回の会議にて委員より議論していただいた内容が整理してある。後半については、具体案が示されている。この内容についてご意見をいただきたい。 では、内容については事務局より説明いただきたい。</p> <p>【事務局】 では、内容について説明を行う。はじめに、東村山市第5次総合計画について記載し、</p>				

続けて、2月に公民館運営審議会に諮問を行った経緯について文書化した。

1～3については、東村山市第5次総合計画の概要版の内容を引用した。4については、公民館の現状として、コロナ禍での利用状況、5ではなぜ30歳代・40歳代に利用の促進をするのか、記載をしている。また6では、これまで会議内で議論していただいた内容をまとめている。終わりに会議内で委員の皆様よりいただいた、具体案を記載した構成となっている。

**【会長】**

事務局の説明についてご意見をいただきたい。

**【委員】**

確認であるが、今回示された中間報告として提出するのか。

**【会長】**

来期の講座ボランティアの参考となるように中間報告として提出する。

**【委員】**

項目として、1～3までが総合計画の内容で、4から会議で議論した内容でよいか。

**【事務局】**

そのとおりである。

**【会長】**

この内容を来期の市民講座ボランティアが参考にし、その後どのような形で講座が実施され30歳代・40歳代の方々が参加してくれるのか検証していく。我々21期は来年の10月末までの任期であるので、それまでにまとめられるのか、という課題がある。

**【事務局】**

諮問については、今年に入ってから、本格的に公民館審議会にてご協議いただいている。本来は、この審議会ですべてに調査研究した中で、討議がなされ諮問、答申という流れで行うので、もっと時間をかけて行うべきという意見もいただいているが、より早くご意見が市民講座ボランティアの方の参考となるよう、令和4年度の講座のテーマ設定や準備が整うことを第一として考え、6月の公民館運営審議会でも方向性が決まったことから、12月までに中間の報告を行うことで準備をしてきた。21期の任期中に諮問、答申についてご協議いただくことを前提に進めてほしい。令和4年の10月までには、最終答申をいただけるとありがたい。

**【委員】**

当初、事務局より提案されたのは、既にこの時期には答申を提出してほしいと要望をされていたが、それには、あまりにも議論の時間が足りないということであった。しかし、講座ボランティアに対し参考となるよう中間の報告を行うことで話がまとまった経過がある。現在の課題として今後のスケジュールが見えていない状況である。今後のタイムスケジュールを決める事を優先で考えた方がよいと思う。

**【会長】**

第21期の任期中に答申の提出が出来るかを含めて、委員各位にご意見いただきたい。時間も限られた中で、検証も行わないといけない。今後の流れとしては、市民講座ボランティアへの参考となる資料を基に講座を検討して、その結果、どの程度30歳代・40歳代の方々が参加するのかを検証する必要があるため、来年の10月までにまとめることが難しい場合には、第22期を跨ぐことは、どうか意見を伺いたい。

**【委員】**

第21期に対しての諮問であるので、期を跨ぐことは反対である。今回示された、中間報告案の書き出し部分の「はじめに」の文章について、反映という文言があるが参考になるよう議論しているのであって反映する議論を現状では行っていないので、今後その点をどうしていくのか議論が必要と考える。

**【委員】**

2点質問がある。答申について期を跨ぐことや継続審議が可能か。中間報告を提出するのではなく、答申として提出することはどうなのか意見をいただきたい。

**【委員】**

中間報告(案)が手元に届いて読んでみて、とても悩んだ。

**【委員】**

30歳代・40歳代に絞って、現在議論をしていて、中間報告から最終答申へどのように進めていくのか、答申提出の時期など、課題もある。

**【会長】**

これらの意見に対し事務局はどのように考えるか。

**【事務局】**

今回示した、中間報告(案)に関しては、これまで委員の皆様からいただいた意見をまとめて、市民講座ボランティアに令和4年度の講座選定の参考となるよう答申に向けた中間報告としたい。

**【委員】**

この案でも個人的には良いのではないかと思う。

**【委員】**

もう少し内容を煮詰めた方がよいのではないか。人を集めるには、様々な方法があり、SNSの活用など、チャレンジする事がとても大切であると思う。

**【副会長】**

前回に「東村山市第5次総合計画」の内容については、話していなかったが、公民館としても今後に向けて動いていかないといけない。また中間報告(案)の中で記載のある市民講座ボランティアに還元出来るようにという表現でなく参考にとの表現にして講座ボランティアに取り込んでいただき、今後検証していくことが重要である。

**【事務局】**

今回、タイトルとして答申という文言をいれるのか、中間報告とするのか、今までいただいた意見を参考意見とするのか、事務局側でも議論した内容である。中間報告を提出した後、答申までの進め方がとても重要であり、委員の皆様よりご意見をいただきたい。

**【委員】**

これまで、話を聞いてきて、市民への発信方法を変えた方がよいとの意見もあった。ではどのような方法があるのか、自分たちも学習しないといけない。他市の良い事例を学んだり、30歳代・40歳代の講座の参加率の高い市町村の例を参考にすることが大切である。

東村山市第5次総合計画の基本目標2については、全て公民館で出来ると考える。様々議論することも多く、中間報告でまとめるのは、現状難しいので、答申までに議論を深めていくと良いのではないか。

**【委員】**

中間報告としては、これまでの議論が足りないと思う。今回は、答申の中間報告という表現でなく、講座ボランティアの参考となるようなものでもよいのではないか。

**【委員】**

講座ボランティアの参考とするには、今回の会議でまとめないといけないので、中間報告(案)について、意見をもらい決めた方がよいと思う。

**【会長】**

それでは、今回この中間報告（案）について文言等の修正などありましたら、ご意見をいただきたい。

**【委員】**

12月には、講座ボランティア会議が開催されるので、参考として示さないといけないので、まずは文言整理し、まとめることを最優先で議論した方がよいと思う。項目4の公民館の現状に途中経過が書いてある。項目6公民館運営審議会は、順番を逆に、4と6を入れ替えた方がよいと思う。30歳代・40歳代の参加が10%に留まっているのは、コロナ禍なのか、文章からでは読み取れない。ではそれ以外の年代の参加率も現状もわからない。構成としては、題名がきて、これまでの議論の経過として項目4、5にして、周知募集方法が最後にくる構成になるのではないか。答申では統計なども入れるが、現時点では議論出来ていないので、現状ではこうなるのではないか。

**【会長】**

項目1～3については、東村山市第5次総合計画の引用であるが、この記載を残すのか、削るのか意見をいただきたい。

**【委員】**

残すのであれば、注記が必要である。

**【委員】**

現状では繋がりが無いように思う。今後を担う人の育成を行うにはどのような検討が

必要か考えていくことが重要である。

**【委員】**

文の構成について、今回の中間報告（案）について繋がりが無いと思う。少し工夫すれば、良くなると考えている。表紙の題名についてはいいのではないかと。1ページ目の「はじめの」の部分に30歳代・40歳代の参加を促す方策を最初に記載する。続いて、東村山市公民館運営審議会の考え方にすれば、いいのではないかと。最後にこのような背景があるなかで、我々審議会では、限られた時間で、公民館の役割等を議論した結果について述べれば、分かり易くまとめられるのではないかと。項目1～3については、個人的にはとても良いと思っている。

**【委員】**

資料として、日野市と国分寺市の答申を確認している。各市とも構成については、様々である。

**【委員】**

今回は、内容を絞って、それに言及してまとめていっては、どうか。

**【委員】**

文書の構成など、少し修正していければ、良いものが出来上がってくると思う。

**【委員】**

答申については、公民館運営審議会の名前で提出するのだから、わからない事があったときは、学習していくことが、大切である。

**【副会長】**

資料3ページ、4ページのキーワードで「持続可能なまちづくり」とあるが、例えば、持続可能な公民館の体制のようなイメージで考えた時、今何が足りないか。30年前、40年前には、30歳代・40歳代の方々が積極的に公民館活動を行っていた。現在、その中心的に活動していた人は、70歳代・80歳代になっている。若い世代の育成をしていくことで、持続可能な公民館活動が推進されていくのではないかと。

**【委員】**

持続可能な公民館という文言については、誤解を生じてしまうと考える。諮問内容としては、30歳代・40歳代の主催講座の参加を促す方策であるので、なぜ必要なのかを議論の中で、公民館の今後について、30歳代・40歳代の参加が不可欠であるとの議論であれば良いが、今は、地域の中で活躍する方を増やすための議論である。しかし危機感を持つことは、大切である。

**【副会長】**

今は、ネットで簡単に情報を入手することが出来るので、そこで正しい情報を与える場として公民館は大事である。ネットで知り合って、公民館で学びあう場として公民館をうまく提供出来ないかと思う。

**【委員】**

若い世代の居場所づくりとして、ネットもあるが、リアルな交流の場としての公民館

の役割について、今後提出する答申にも記載していければよい。

**【委員】**

項目5に「30歳代・40歳代の子育て世代」と記載されているが、SDGsでは、誰も取り残さないということから、この文章だと子どもがいる30歳代・40歳代と読み取れる。他にも子供がいる世代を限定しているので偏りすぎているのでは、ないかと思う。

**【委員】**

この世代は、子育てだけでなく、様々な立場で大変忙しい世代だと思う。今回、中間報告を提出するのであれば、今回議論する内容を次にまとめる。現状はこのような形にすればよいと思う。

**【委員】**

子育て世代という文言をいれるのであれば、例えば「まずは子育て世代」とか「全ての」という記載の仕方にすればどうか。まずは、この辺の文言を整理することが最優先だと思う。

**【会長】**

子育て世代という表現について、限定しないよう他の意見をいただきたい。

**【委員】**

例えば、働き世代で忙しい等、ダブルケアを行っているとか、文言が入っていないので、書き方を工夫する必要がある。

**【委員】**

この世代にターゲットを絞るのはすごく難しいと個人的に感じた。

**【委員】**

講座参加率の低い30歳代・40歳代の参加のためには、開催日や時間設定の工夫が必要であるとの文言にすれば、良いのではないか。子育て世代の文言を削除しても現在30歳代・40歳代に参加してもらうためには、開催日や時間設定を工夫することが重要なことなので、文言修正しても問題ないと考える。結果的に方法論には、子育てについても記載してある。

**【委員】**

表現方法として、子育て限定でなく様々な場面において、忙しい世代と記載出来ればよいのではないか。

**【委員】**

講座ボランティアの方で30歳代・40歳代の方はいるのか。

**【事務局】**

現在はいない。

**【委員】**

タイトルをしっかり決めた方がよい。中間報告という文言でよいのか、他の委員の意見はどうか。

**【委員】**

中間報告でも良いと思うが、答申にどう繋げていくのか。あえて中間報告として提出しなくても、いいのではないか。

**【委員】**

中間報告という見出しで、まとめてしまうとこれ以上議論を深める事ができないので今回は、参考となるよう中間まとめという形で来年の10月に答申を提出すればよいのではないか。

**【委員】**

答申を提出した後も、議論を続けてもよいと思う。

**【委員】**

確かに、検証していくことは大切なことである。

**【委員】**

文言として、中間報告でなく、中間まとめのような形にするのか決めないと前に進めない。

**【副会長】**

まずは、12月の講座ボランティアによる令和4年度の講座の選定に向けて、審議会で議論した内容を参考にしてもらえるようにまとめることが今回の目的ではないか。2月、3月で検討した内容が示されるので、その時に審議して来年は意見が取り込まれているのかを検証していく。

**【委員】**

来年度、提出した中間報告が反映されているのかを審議する時間があるのか、また反映されたものを、何をもって評価するのか。評価をするのであれば、評価指針が必要である。私達がどのくらいできるか今後も議論を深めていくことが大切である。

**【会長】**

10月まで期間は、限られている。今後の進め方がとても、重要になってくる。

**【委員】**

タイトルとしては、「第21期東村山市立公民館運営審議会」答申にむけての中間報告とすれば、この文書は答申でないのよいと考える。

委員賛同

**【委員】**

テーマとしては、「市民講座等の公民館主催事業に対し30歳代・40歳代参加を促す方策」について良いと考える。

**【事務局】**

確認であるが、項目1～3について、東村山市第5次総合計画を引用しているが、この時点で掲載するのをご意見をいただきたい。

記載する事で全員承認

**【事務局】**

では、本日頂いた意見をまとめ最終的に会長と副会長と調整して決定し各委員に報告をすることでご承認をいただきたい。

全員承認

**【会長】**

では、協議についてはこれで、終了する。では、事務局より報告事項について説明を行う。

**【事務局】**

まず、はじめに11月16日～11月21日まで「多摩北部圏域美術展」が開催するので、委員にも是非、ご覧いただきたい。多摩北部とは東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市、小平市から構成されている。多摩六都では、様々イベントを行っている。その一環で、美術展が開催される。5年に1回当番が回ってくるが、今年が東村山市の当番である。

令和3年度公民館主催事業及び講座の9月～10月の実施について、「住むまちを知る」9月8日～10月6日まで富士見公民館にて開催する。「住むまちを知る」については、シリーズ化し5年間かけ、5回の講座で市内の全公民館を会場にしてその周りの地域の歴史を探っていく内容である。今年度が5回で最終回になる。参加は29名で富士見町、恩多町周辺の歴史と文化を学んだ。参加者の平均年齢は73歳であった。初回と2回目は、文化協会の大井会長に講師を依頼した。内容は講演と実際のまち歩きをした。3回目、4回目は、ふるさと歴史館の学芸員に依頼し、富士見町の昔の様々な話をしていただいた。続いて「人工知能社会」は9月30日～10月9日の間、3回行った。講師は青山学院大学の川島准教授に依頼し参加者19名で実施した。参加者の平均年齢は67歳であった。次に「親子パークレンジャー体験」を10月24日に実施した、講師には杉山委員に依頼し12名の参加であった。対象は小学生で昆虫や植物、外来種、水辺の生き物などの話しをしていただき、参加した親子で楽しんでいた。次に「東村山市の文化と芸能活動」だが11月16日に開催した。

中央公民館ホールで前半は、東村山市にゆかりのある詩人の話、後半は、琴、尺八のコンサートを開催する予定である。

単発講座について、「ウォーキング教室」を富士見公民館で10月14日、21日に開催した、参加者は25名で平均年齢は66歳であった。本来であれば6月に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により、延期になっていた事業である。次に「小学生対象のスポーツ測定会」10月30日に富士見公民館で予定している。ホール自主公演事業「アリスイリュージョンマジックショー」9月18日に実施した。中央公民館で入場者は107名の親子で楽しんでいた。

「かめの子」学級は、雨天のため中止となった。「土曜寄席」富士見公民館で9月25日に実施し36名の入場者数であった、次回は11月27日に秋津公民館で開催予定である。「フレッシュコンサート」は10月3日に開催した。



**【会長】**

何か意見はあるか。

**【委員】**

現在、定員を半数としているが、緊急事態宣言が解除され、いつ定員を元に戻すのか。

**【事務局】**

緊急事態宣言が解除され、その後、リバウンド防止期間ということで、東京都からも、様々な要請があったが、ここにきて、施設の入場者制限の緩和がされてきている状況であるが、東村山市としては、その都度対策本部を開催しその状況に応じて判断をしている。公民館としては、収容人数は1/2を継続し料理教室は引き続き中止。開館時間については、9時～22時まで開館している。市でも基準を設けて運用している。

次に11月2日～12月10日にかけて、「公民館の利用に関するアンケート」を実施する。公民館窓口、その他公共施設にアンケート用紙を設置、又はホームページを通じてネット回答も行えるよう準備をしている。内容としては、事業ではなく公民館の施設の在り方や公民館の設置目的等、学習スペースの利用、インターネットの環境等について実施する。今後は、社会教育委員会議にてご意見を伺う予定。審議会にも報告する予定である。

その他

(1) 次回日程について

**【会長】**

今回は令和4年1月17日(月) 18時より中央公民館にて開催する。